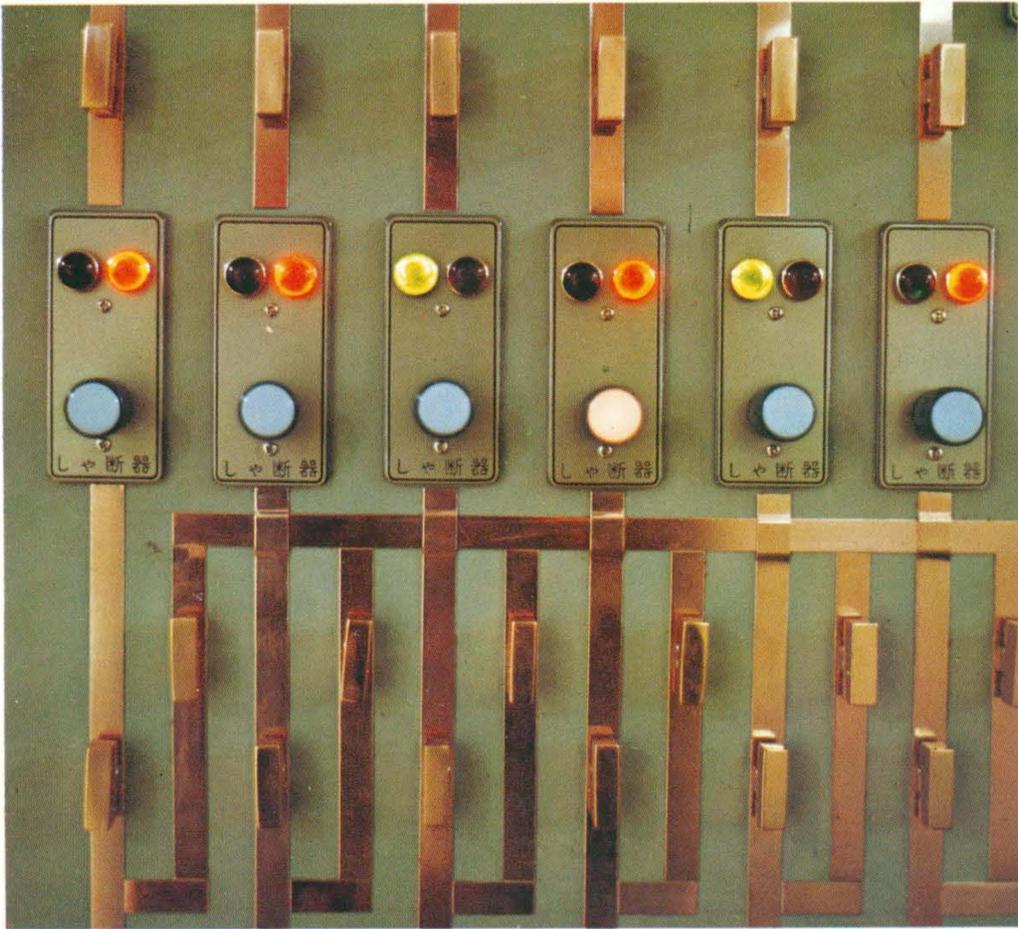


ここに特許が



正確・迅速に選択操作するトータルチェック方式

最近では電力設備の無人化が進み、多くの発・変電所には遠方制御装置が適用され、親局（制御所）が数カ所の子局（被制御所）をもつ集中制御も行なわれている。

日立パルスコード遠方制御装置は、電力用として開発された最初のもので、信頼度の高いワイヤスプリングリレーを使用、この種リレー式遠方制御装置ではほとんど市場を独占している。

この装置の大きな特色はトータルチェックということで、特許の主眼もここにある。これは親局からの選択パルスと、選択に答える子局からの応答パルスの交信によって選択操作をし、いつの場合でも、選択と応答のパルスの合計が同じになるよう考案されている。

写真は親局に設置された遠方制御装置の制御盤で、制御される子局は三次変電所である。今、制御盤により変電所のスイッチNo.1を呼出すと、選択パルス1が送られ、呼び出された子局からは応答パルス5が返ってくる。合わせて6となり、まちがいなくNo.1が選択されたことがわかる。No.3を呼び出すと選択パルスは3、応答パルスも3、合わせて6ということになる。

トータルチェック方式によって、誤選択、誤動作がなくなったばかりか、在来形では連絡線が5本必要であったものが2本ですみ、選択時間も6秒から2秒に短縮された。さらに、選択操作ごとに1パルスを使った同期式は雑音に弱く、マイクロ波や無線、電力線搬送などの通信線にのせられなかったが、トータルチェック方式ではいずれも適用でき、伝送距離にも制限がなくなった。